

を注意深く読むなら、この章について深い印象を持ち、七つの極めて重要な点の順序に注意を払うべきです。A 主は命のパンです。ヨハネ6:33 なぜなら、神のパンとは、天から下って来て、世の人に命を与える者だからである。35 イエスは彼らに言われた、「私が命のパンである。私に来る者は決して飢えることがなく、私の中へと信じる者はいつまでも決して渴くことはない。B 主はご自身の命のパンを与えて、私たちに食べさせます。C 主はまたご自身の血を与えて、私たちに飲ませます。D 主は死なれただけでなく、復活しました。E キリストが私たちの中に生きていますので、私たちは彼のゆえに生き、神の御前に生きます。F 彼の肉体ではなく、彼の霊が私たちに命と命の供給を与えます。G その霊は主の語る言葉の中にあります。彼の言葉は霊であり、命です。

II 主イエスが天から地に下って来た主要な目的は、一つの中心的な事柄、ご自身を食物(命のパン)として与えることを成就するためでした。それは彼が霊的養いとして私たちによって食べられ、私たちによって消化されて、私たちの構成となることのできるためでした。III ヨハネ6章は、主イエスが命のパンであることについて詳細に語っています。彼は「私は命のパンである」と宣言しました。ヨハネ6:48 私は命のパンである。

A ヨハネ6章の多くの節は、私たちの経験と享受のために、キリストが命のパンであることを啓示しています。ヨハネ6:32 イエスは彼らに言われた、「まことに、まことに、私はあなたがたに言う。モーセが天からのパンをあなたがたに与えたのではなく、私の父が、天からのまことのパンを与えてくださるのである。1 ヨハネ6章全体の最も重要な点は、キリストが私たちの食物、命のパンであるということです。

2 主を食べることは一度限りの事柄ではありません。それどころか、私たちは日ごとに主と接触し、主を食べる必要があります。なぜなら、主は食べることのできる方であるからです。3 私たちは霊を活用して彼から養いを得て、彼を受け入れ、彼を消化し、彼を経験し、彼を享受し、そして瞬間ごとに彼を適用する必要があります。4 私たちはみな一つの事柄、キリストを食べて彼から食べたものによって生きること

に集中すべきです。B 「朽ちる食物のためにではなく、永遠の命に至る永存する食物のために働きなさい。これこそ、人の子があなたがたに与えるものである」(ヨハネ6:27): 1 永遠の命は神聖な命、神の非受造の命であり、時間に関して永続するだけでなく、性質において永遠であり、神聖です。2 永遠の命に至る永存する食物は、私たちに供給して、私

たちを永遠の命の中へともたらすことができます。C 「私の父が、天からのまことのパンを与えてくださる

のである。なぜなら、神のパンとは、天から下って来て、世の人に命を与える者だからである」(ヨハネ6:32-33): 1 霊的な事柄だけが実際です。「その霊は実際である」(1ヨハネ5:6b)。2 まことのパンとして、キリストは真理のパン、実際のパンです。キリストはまことであり、実際です。3 私たちはみな、命のまことのパンとしてのキリストが神によって遣わされて、私たちに永遠の命をもたらすことを必要とするという事実

に深く印象づけられる必要があります。4 ヨハネ6:33の「神のパン」は、32節の「まことのパン」です。5 天から下って来たパンとして、キリストは天のパンであり、神のパンとして、彼は神に属しています。彼は神によって遣わされ、神と共におられました。6 私たちがこのパンを食べ、消化するとき、それは私たちの構成となり、そして私たちは主に結合され、ミングリングされて一となります。7 天から下って来た生けるパンを食べる者はだれでも、永遠に生きます。D 51節後半で主イエスは言いました、「私が与えるパンは私の肉であり、世の人の命のために与えるものである」:

1 この時点で、パンは肉となります。2 主はご自身の体、すなわち、ご自身の肉を与え、私たちのために死なれました。それは私たちが命を持つためでした。E 「まことに、まことに、私はあなたがたに言う。人の子の肉を食べ、彼の血を飲むのでなければ、あなたがたの内に命はない」(ヨハネ6:53): 1 血と肉の分離は、死を示します。2 ここで主はご自身の死、彼が殺されることを明確に示しました。3 彼は私たちのためにご自身の体を与え、ご自身の血を流しました。それは私たちが永遠の命を持つためです。a 彼の肉を食べることは、彼が私たちのためにご自身の体を与えて成し遂げたすべてのことを、信仰によって受け入れることです。b 彼の血を飲むことは、彼が私たちのためにご自身の血を流した時に完成したすべてのことを、信仰によって受け入れることです。4 彼の肉を食べ、彼の血を飲むことは、十字架上で私たちのため

に行なった事を信じることによって、彼の贖いにおいて、命また命の供給として彼を受け入れることです。5 53節と47節を比較することによって、私たちが見るのは、主の肉を食べ、主の血を飲むことは、彼を信じることであるということです。なぜなら、信じる

こと、あるいは中へと信じることは、受け入れることであるからです。ヨハネ6:47 まことに、まことに、私はあなたがたに言う。信じる者は永遠の命を持つ。F 「私の肉はまことの食物であり、私の血はまことの飲み物である」(ヨハネ6:55): 1 私たちが人の子の肉を食べ彼の血を飲むことをしないなら、私たちの内側に永遠の命はありません。2 私たちは彼を食べ彼を飲むなら、彼のゆえに命を持ちます。G 全聖書において最も強く、最も奇妙な文はヨハネ6:57 です。

「生ける父が私を遣わされ、私が父のゆえに生きて  
いるように、私を食べる者も、私のゆえに生きる」:

**1** 食べることは、食物を私たちの中へと取り入れて、それが私たちの体の中へと有機的に吸収されることです。**2** 主イエスを食べることは、彼を私たちの中へと受け入れて、再生された新しい人が、彼を命の方法で吸収することです。**a** そうすれば私たちは、私たちが受け入れる方によって生きています。**b** このようにして、復活した方である彼は、私たちの中で生きています。**IV** 「命を与えるのはその霊である。肉は何の役にも立たない。私があなたがたに語った言葉は霊であり、命である」(ヨハネ6:63)**A** ヨハネ6章の最後の部分は、キリストが命を与える霊と言になったことについての区分です。**B** キリストはその霊であるので、私たちは内側でその霊としての彼と接触することができます。**1コリント15:45** そこで、「最初の人、アダムは、生きた魂と成った」と書かれています。最後のアダムは、命を与える霊と成ったのです。**C** 彼は命を与える霊であるので、私たちは彼によって養いを得て、彼を私たちの食物として吸収することができます。**D** 私たちは、命のパンとしての、命の供給としての主イエスを受け入れて、養われるために、彼が命を与える霊であることと、この霊が御言の中に具体化されていることとを見る必要があります。**E** 主が私たちに与えるものは、命を与えるその霊です。この霊は復活における主ご自身です。**F** ヨハネ6:63で、「言葉」はその霊に続きます。**1** 主は命を与えるために、ご自身がその霊と成ったということを示しました。**2** それから彼は、ご自身が語る言葉は霊であり、命であると言いました。これは、彼の語る言葉が命を与える霊の具体化であることを示します。**3** 私たちは御言の中のその霊に触れないなら、命を受け入れることはできません。**4** 日ごとに私たちは主に来て、御言の中のその霊としての彼に触れる必要があります。私たちはこのことを行なうなら、命のパンとしてのキリストから養いを得ます。**G** ヨハネ6章は命の言葉をもって締めくくっています。命の言葉は、私たちが命のパンとしての主を受け入れる手段です:**ヨハネ6:68** シモン・ペテロが彼に答えた、「主よ、私たちはだれに行きましょう? あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。**1** 私たちは御言を受け入れるなら、その霊を持ち、内側でその霊を持っているなら、キリストを命の内なる供給として持ちます。**2** どうか私たちがみな、私たちの必要が私たちの命の供給としてのキリストであることを認識し、それから御言の中に具体化されている命を与える霊としての彼と日ごとに接触しますように。

**CP1** 主は命のパンであるので、主に来て、主を食べ、主を享受し、主を消化して、主で構成される

**I** 私たちはヨハネ6章を注意深く読むなら、この章について深い印象を持ち、七つの極めて重要な点の順序に注意を払うべきです。**A** 主は命のパンです。**B** 主はご自身の命のパンを与えて、私たちに食べさせます。**C** 主はまたご自身の血を与えて、私たちに飲ませます。**D** 主は死なれただけでなく、復活しました。**E** キリストが私たちの中に生きていますので、私たちは彼のゆえに生き、神の御前に生きています。**F** 彼の肉体ではなく、彼の霊が私たちに命と命の供給を与えます。**G** その霊は主の語る言葉の中にあります。彼の言葉は霊であり、命です。**II** 主イエスが天から地に下って来た主要な目的は、一つの中心的な事柄、ご自身を食物(命のパン)として与えることを成就するためでした。それは彼が霊的養いとして私たちにによって食べられ、私たちによって消化されて、私たちの構成となることのできるためでした

主イエスは食物の形で天から地に下って来られました。これは特別な事柄です。どの聖人にもこの思想はありませんでした。主は、彼は命のパンであると言われました。私たちは、この言葉が浅薄であると思うべきではありません。これは深遠な言葉です。哲学的な思いを持つ人は、この言葉に含まれる思想の深遠さを知っています。...普通の人はいずれも、そのような特別な言葉を語ることはできません。主が天から下って来たパンであることは、彼が食物の形で地に来られたことを意味します。彼は、私たちが彼の御前にひれ伏して彼に犠牲をささげることを願われません。彼は、私たちが彼を受け入れ、命として取り入れることを願われます。

ヨハネ6章で、主には王や天使長の身分はありませんでした。彼の身分は命のパンでした。私たちが聖書を読むとき、しばしばこの事柄を軽視するのは、主の思想に触れたことがないからです。私たちは主の思想に触れるとき、主が食物の形と身分で地に来られたことに驚くでしょう。地上での彼の働きは、彼が人によって食べられ、人の命となるためでした。何人かの人々は聖書を読むとき、主イエスが地に来て神のみこころを行ない、神のご計画を成就されたことを見ます。何人かの人々は、彼が来て人々に仕えたので、彼らのために多くの事を行なわれたと考えています。厳密に言って、主イエスが地に来られたのは、一つの中心的な事柄を成就するためでした。すなわち、ご自身を食物として人に与え、彼が霊的養いとして人によって食べられ、人によって消化されて、人の構成となることのできるためでした。

## 適用:ビジネスパーソン編

**証**私は主を信じた後、自分の意志を使って、根性を出して主に従っていくものだという宗教観念を持っていました。しかし、リー兄弟のメッセージで、「神のエコノミーは神ご自身を食物の形で、私たちの中に分与することである」、「神は分与のために、肉体となること、人間生活、死、復活の順序を経て、命を与える霊となった」と聞きました。私は最初、神のエコノミーが私の宗教観念とかけ離れていたの、よく理解できていませんでした。しかし、「生ける父が私を遣わされ、私が父のゆえに生きているように、私を食べる者も、私のゆえに生きる」(ヨハネ6:57)を何度も読んで、主と会話しているときに、クリスチャン生活と召会生活が、日本人の根性によるのではなく、神の分与を享受する生活であることが分かり始めました。私は主を食べ、享受しなければ、主のゆえに生きることはできません。

1985年の12月訓練に参加した後、ロサンゼルスの中高生集会に参加して、彼らが詩歌を大声で賛美し、エンジョイしている光景を見て、とても照らされました。「もっと頑張らなければいけない」という日本の文化的障壁のゆえに、主をエンジョイすることをまだ十分に理解できていないことが分かりました。そして、「神のエコノミーは神の分与であり、私たちは主を食べ、享受する方法で分与にあずかる必要があることを更に見せてください」とロサンゼルスブラザーズ・ハウスに滞在中に何度も何度も祈りました。この時の祈りは、私に新しい復興をもたらしました。Hallelujah, eating Jesus is the way!

その後、リー兄弟の「エジプトの食物からマナに食事を変えることは、彼らの構成を変えるためである」というメッセージを読み、食べることはエンジョイすることだけでなく、構成を変えることでもあることが分かりました。私たちの体は食べるものによって、構成されています。同様に、私たちが主を食べれば、主で構成されることができず。それは私たちが主で構成され、主に符合して、主の花嫁となるためです。

先月の全国特別集会で、エド兄弟は、神の定められた聖書的な道における奉仕とは、簡潔に言うと、「神に接触し、他の人に接触する(Contact God and contact people)」ことであると言われました。私は最初に、主に来て、主に触れ、主を食べ、主を享受する必要があります。そして、主で満たされ、主で構成され、主をもって、主と共に他の人と接触し、彼らに主を分与します。ハレルヤ、奉仕においても、主イエスを食べることは私たちの道です! Hallelujah, eating Jesus is the way!

**祈り**おお主イエスよ、あなたは命のパンです。あなたは私をあなたが食べて享受することを願っておられます。あなたを食べ、享受し、あなたで構成され、あなたに符合して、あなたの花嫁となります。

**CP2**命を与える霊は、御言葉の中に具体化されている。毎日御言葉を食べ、命の供給を受ける  
**IV**「命を与えるのはその霊である。肉は何の役にも立たない。私あなたがたに語った言葉は霊であり、命である」(ヨハネ6:63)  
**D**私たちは、命のパンとしての、命の供給としての主イエスを受け入れて、養われるために、彼が命を与える霊であることと、この霊が御言の中に具体化されていることを見る必要があります。**E**主が私たちに与えるものは、命を与えるその霊です。この霊は復活における主ご自身です。**F**ヨハネ6:63で、「言葉」はその霊に続きます:**1**主は命を与えるために、ご自身がその霊と成ったということを示しました。**2**それから彼は、ご自身が語る言葉は霊であり、命であると言いました。これは、彼の語る言葉が命を与える霊の具体化であることを示します。**3**私たちは御言の中のその霊に触れないなら、命を受け入れることはできません。**4**日ごとに私たちは主に来て、御言の中のその霊としての彼に触れる必要があります。私たちはこのことを行なうなら、命のパンとしてのキリストから養いを得ます。

第一に、主は命を与えるために、その霊と成ることを示されました。それから彼は、ご自身の語る言葉は霊であり、命であると言われました。これは、彼の語られた言葉が、命の霊の具体化であることを示します。彼は今や復活の中で命を与える霊であり、その霊は彼の言葉の中に具体化されています。私たちが、私たちの霊を活用することによって彼の言葉を受け入れるとき、命であるその霊を得るのです。

言葉は私たちの外にあります。私が言葉を私の中へと受け入れるとき、それは直ちにその霊となります。私が言葉を語り出すとき、その霊は再び言葉となります。...私たちは福音を宣べ伝えるとき、実は言葉を宣べ伝えているのです。人々は福音を信じるとき、言葉を信じるのです。奇妙に見えるかもしれませんが、人々が言葉を受け入れるとき、言葉は事実上、彼らの内側でその霊となります。例えば、あなたがヨハネ3:16を通して主に来て、「主よ、感謝します。あなたは私にとってとても素晴らしいです。あなたは御子を私に下さいました」と祈ったとします。あなたがこの言葉を信じたとき、あなたの内側の何か生き返らされ、生きてきました。あなたは言葉

を信じましたが、その霊を受けたのです。あなたの外側にある言葉が、あなたの内側でその霊となりました。...あなたが言葉を聞き、それを受け入れるとき、いくらかその霊をも受け入れたのです。これはとても奥義的であり、驚くべきことです。

適用:青少年・学生・新人編

**証1**最近、私は青年詩歌集144番をよく歌って享受しています。「命の木、食べることはキリストを命の供給とし享受することです。それは、召会生活の主要な事柄です。キリストを享受することは召会生活における主要な事柄です」。この詩歌を歌うと、召会生活で重要なことは、外側で何かをすることではなく、まず、御言葉を食べ飲みして、享受することであるのをいつも思い起こさせられます。ヨハネ6:63 命を与えるのはその霊である。肉は何の役にも立たない。私があなたがたに語った言葉は霊であり、命である。

**証2**7月初めに兄弟姉妹と福音枠組で駅に行った時に、神戸大生の張さんに出会いました。彼は高校2年生の時に聖書を読み始め、これまで様々な教会に行ったことがありました。兄弟姉妹は聖書の言葉を彼に語り、連絡先を交換しました。9月のある日、突然彼から「あることについてとても悩んでいるので祈ってほしい」とのメールが来ました。その時にすぐに彼に聖書の言葉を送りました。また兄弟姉妹と彼のために祈りました。先週、彼を集会に誘ったところ、行きますとの返事がすぐに来ました。一緒に彼のために祈っていた兄弟姉妹に彼が来ることを知らせ、彼が救われるように祈ってもらいました。そして、主日、彼が来た時に、最初は兄弟姉妹と一緒に詩歌を歌い、それから小さいグループで交わりました。彼は兄弟たちと一緒に人生の奥義を読んで、すぐに喜んでバプテスマを受けました。彼はとても霊を解放して詩歌を歌い、またバプテスマした後、自ら大きい声で祈りました。若者が御言葉を受け入れて、霊が解放され、喜びに満たされた顔を見て、私はとても感動しました。彼がこれからは毎日御言葉を受け入れ、エンジョイし、成長することができますように。

**祈り**おお主イエスよ、あなたが語る言葉は霊であり、命です。命を与える霊は、御言葉の中に具体化されています。聖書の言葉に来て、御言葉の中のその霊に触れないなら、命を受けることはできません。食物を毎日食べるように、日ごとにあなたに来て、命のパンとしてのキリストを食べて、養われます。毎日キリストを食べることは、私のクリスチャン生活と召会生活にとって極めて重要なことです。

1. 献金の負担:

- a 東京基臨ビルのエアコンの入れ替えの必要のために神戸からは150万円献金します。
- b 三宮集会所のリフォームに100万円
- c 王子公園学生福音センターの2台エアコン:25万円、椅子:9.2万円、ピアノ5.9万、部屋の鍵4ヶ所設置:12.5万円、その他:1万円、計53.6万円
- d リジョイスガーデン入り口から下の駐車場まで8か所の道路補修に33万円、入り口横の石壁の補修11万円、電気温水器の交換36.7万円、計で80.7万円必要です。
- e 合計:384.3万円が余分に必要ですので、覚えてください。

2. 11月のスケジュール:

- 11/1-7 台湾訪問
- 11/9 松下B・宋S結婚集会@京都
- 11/16 Bookフェア@東大阪
- 11/20-25 ニュージーランドのBS神戸訪問
- 11/23 関西・四国・東海BLD集会@魚崎